



図51 濁水満々の糸島平野 前原町笹山から撮影された志摩方面（昭和28年 糸島新聞）



図53 桜井川堤防の応急工事（昭和47年）

図52 5億円を越す被害を出した集中豪雨（昭和47年）

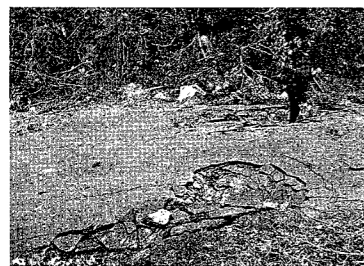


図54 福岡県西方沖地震による被害 福の浦（平成17年）



図55 福岡県西方沖地震による被害 志摩中グラウンド（平成17年）

区分	人的被害		住家被害		非住家		その他		被災状況
	軽傷者	重傷者	半壊	一部破損	道路	崖くずれ	水道	ブロック塀等	
	三人	二人	一六棟	一四一棟	五九棟	六カ所	一カ所	二カ所	一〇五カ所

表78 福岡県西方沖地震による被害状況



図48 濁水満々の糸島平野 前原町笹山から撮影された元岡方面（昭和28年 糸島新聞）

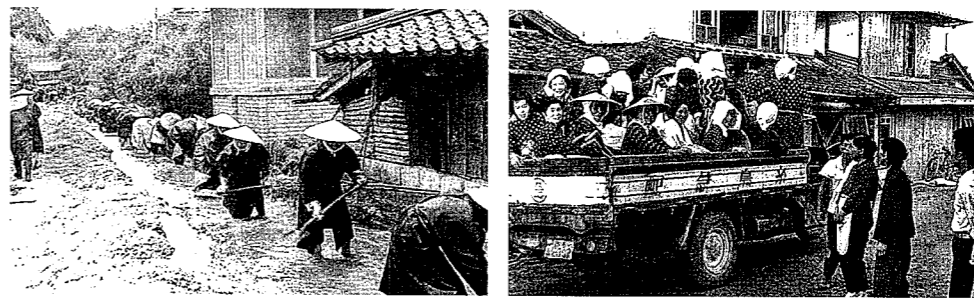


図50 小金丸での救援奉仕活動（昭和28年）

図49 長糸婦人会の救援奉仕隊（昭和28年）

平成三年災害（台風一七号、一九号）発生（台風一七号）平成三年九月十四日、総雨量二〇六ミリ
 （台風一九号）平成三年九月二十七日、強風、総雨量一七七ミリ

福岡県西方沖地震 平成十七年（二〇〇五）三月二十日午前十時五十三分、福岡市の北西約四〇キロメートルの玄界灘を震源とする強い地震が発生し、志摩町では震度五強の強い揺れを観測し、各地区で被害が発生した。

志摩町では、緊急に災害対策本部を設置して職員を集め、被害状況の把握と応急対策にあたった。翌二十一日午後六時には、警戒本部に切り替えた。最終的な被害状況は、表78のとおりであった。

町では、罹災証明の発行、公共施設災害応急復旧のため、平成十六年度予算の専決処分をおこない、応急災害復旧費に二四六万円を、さらに六月議会の一般会計補正予算で公共土木災害復旧に三〇五万円、漁港災害復旧に一八七六万円、文教施設災害復旧に一四九万円などを計上し応急対策に追われた。

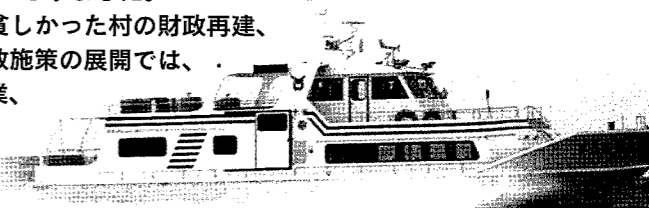
また、全国から寄せられた災害義援金三六四六万円については、三〇二万円を被災世帯へ配分し、残りは基金等として積み立てた。ちなみに、糸島地区では明治三十一年（一八九八）八月十二日の糸島地震（震度五強）以来一〇七年ぶりの大きな

※第一章・第三節・六 行政施策の展開

行政編 全142頁

昭和30年、今から54年前に可也村、桜野村、小富士村、芥屋村の四カ村が合併して志摩村が誕生し、その10年後の昭和40年に町制を施行し、現在の志摩町になりました。

合併前の各村の様子や合併にいたる経過、合併後の貧しかった村の財政再建、幾度にもおよぶ災害の様子などを掲載しています。行政施策の展開では、国民宿舎「芥屋」開館、ゴルフ場の建設、自然休養村事業、都市計画などの経過を紹介しています。町内の小中学校をはじめ、町立公民館など全公共施設のほか、町章、町歌、町民憲章なども掲載しています。



行政編 執筆者紹介

三坂 昭 (元志摩町助役)
 吉富 一雄 (志摩町史編さん室)

